メッセージ　5

福音を前進させる交わりを持ち、命の道の中で福音を宣べ伝える

聖書：ピリピ 1:5-6, 19-21 前半, 22-25, 27．4:22．

使徒 1:8．Ｉテサロニケ 1:3, 5．Ｉコリント 15:58

Ｉ．神の意図は、地方召会が福音を前進させる交わりを持つことです。それは、一時的にではなく継続的に、キリスト・イエスの日まで、すなわち、彼が戻って来るまでです——ピリピ 1:5-6：

Ａ．キリストを経験し享受する生活は、福音を前進させる生活、福音を宣べ伝える生活です。それは個人的ではなく、団体的です。ですから、福音を前進させる交わりがあります。

Ｂ．わたしたちは福音を前進させる交わりを持てば持つほど、ますますキリストを経験し享受します。これはわたしたちの自己、野心、好み、選択を殺します。

Ｃ．福音を宣べ伝える行動は、交わりの中の事柄でなければなりません。なぜならそれは、からだの事柄であるからです：

１．まことのぶどうの木であるキリストの枝として、わたしたちは互いに愛し合い、実を結んで神聖な命を表現しなければなりません。ぶどうの木のどの枝も、単独で実を結ぶことはありません——ヨハネ 15:1-5, 12, 17。

２．わたしたちがキリストによって、キリストの中で、キリストと共に、キリストのために生きるとき、キリストはわたしたちを通して、互いの愛として表現されます。この相互の愛は、わたしたちがキリストの弟子であるという、この世の人々に対する強力な証しとなります—— 13:34-35。

３．わたしたちの福音の宣べ伝えは、からだの生活により、からだの生活の中にあります。わたしたちが宣べ伝えてどれほど実を結ぶかは、どれほどキリストのからだの実際を持っているかにかかっています。

Ｄ．パウロは聖徒たちに、「キリストの福音にふさわしく」振る舞い、「一つ霊の中でしっかりと立ち、一つ魂をもって、福音の信仰と共に奮闘」するようにと命じました——ピリピ 1:27：

１．召会の中のすべての肢体が「一つ霊の中で‥‥一つ魂をもって」いるとき、この一は人々に自らを責めさせ、人々を征服し、引き付け、救われるようにします。もしわたしたちの間に調和がなければ、これは救う霊を殺すでしょう。

２．「共に」という言葉には、「一人の人のように、肩を並べて完全に協力する」という意味と、「運動チームが行なうとき、互いに協力することでの完全さ」という意味があります（ウエスト）。

３．「共に奮闘しており」という句は、福音が労苦と忍耐の事柄であることを示します。バイタルグループは、信仰の働き、愛の労苦、望みの忍耐に関するＩテサロニケ第 1 章 3 節のパウロの言葉にしたがって、努力して前進すべきです：

ａ．信仰の働きは、わたしたちのクリスチャン生活と奉仕の基礎です。愛の労苦は、わたしたちの信仰の働きの実を結ぶかぎです。望みの忍耐は、わたしたちの信仰の働きの長い命です。

b．望みの忍耐は、あらゆる種類の失望、喪失、不可能を克服し、あらゆる種類の反対、障害、阻止に打ち勝ちます――Ⅰコリント 15:58．Ⅱテサロニケ 3:5。

Ⅱ．福音の真の宣べ伝えは、命の道にあります。福音は言葉の宣べ伝えだけでなく、からだの供給、イエス・キリストの霊の満ちあふれる供給を享受し、キリストを生きて大きく表現する生活です――ピリピ 1:19-21 前半．使徒 5:20：

A．福音の宣べ伝えはキリストの表現であり、実を結ぶことは命の内なる経験を外側に働かし出すことです――ヨハネ 15:5．使徒 16:23-25, 30。

B．パウロはピリピ人に手紙を書いたとき、獄の中で生活しており、外側では働いていませんでした。彼が「わたしの働きの実」と言ったことは、彼の働きが実際は彼の生活であったことを示します―― 1:22：

1．パウロの働きの実は、キリストが彼を通して生かし出され、大きく表現され、供給され、他の人の中に伝達されることでした。

2．パウロの生ける働きは、キリストを人に供給し、彼が大きく表現したキリストを人の中に伝達することでした。パウロがキリストを大きく表現することを通して、カイザルの家の何人かでさえ救われました―― 4:22。

3．パウロはピリピ人に、彼の監禁も働いて福音を前進させたと告げました―― 1:12, 18。

C．パウロは自分がキリストを生きることによって、彼の霊の子供たちを養いました。人々を牧養する最上の方法は、彼らに正常な模範を与えることです――Ⅰテサロニケ 2:1-12：

1．パウロと彼の同労者たちは、彼らが広めた福音の模範でした――「わたしたちがあなたがたの間で、あなたがたのためにどのような者であったかは、あなたがたがよく知っているとおりです」―― 1:5 後半。

2．使徒パウロは繰り返し、彼らが信者たちの中に入って行くことを強調しました。これは、福音を初信者の中に注入することで、使徒の生活の仕方が重要な役割を演じたことを見せています―― 5, 9 節．2:1, 11 前半。

D．使徒行伝は、福音を宣べ伝える者が主の証し人、彼の殉教者であることを告げています。これは、わたしたちが人に証しするのに代価を払い、自分の命を犠牲にさえすることを意味します―― 1:8：

1．清く真っすぐな生活をし（Ⅰテサロニケ 2:3-6, 10）、初信者を愛し、自分の魂を彼らに与えさえすることは（7-9, 11 節）、わたしたちが福音を宣べ伝えるとき、伝達された救いを彼らに注入する必要条件です。

2．パウロは聖徒たちのために、彼が持っているものだけでなく、彼自身、彼の存在そのものを、進んで費やしました――Ⅱコリント 12:15。

E．パウロのゆえに、諸召会は命において成長することができ、キリストの享受で満たされることができました。これはまた、今日わたしたちにおいてもそうであるべきです――ピリピ 1:25：

1．パウロは極みまでキリストを生きて大きく表現したので、キリストを聖徒たちの中に伝達し、キリストをすべての召会に供給することができました。

2．パウロがこの世を去ってキリストと共にいるか、それとも肉体にとどまっている

かと考慮したことは、利己的ではなく、聖徒たちのためでした。彼は完全に主と召会で占有されていました―― 23-24 節：

a．わたしたちが肉体にとどまっているか、それとも主のところに行くかは、召会にとって重要な事柄であるべきです。しかしこれは、わたしたちがキリストを生き、キリストを大きく表現し、キリストを供給し、わたしたちの存在の深みから聖徒たちの中にキリストを伝達することにかかっています。

b．からだの生活の中で、主がわたしたちを獲得して供給の経路とし、福音を前進させる緊急の必要があります。

© 2009 Living Stream Ministry